

第3章【これからの日の出町の教育の方向性】

～何を大切にしていけるか、教育委員会のミッションは何か～

日の出町合併 70 周年・町制施行 50 周年記念として編成された日の出町教育要覧『青海波』^{せいがいは}を通して、過去から現在までの教育の営みを概観してきました。

『青海波』とは、無限に続く波を表現したもので、穏やかで永続的といった意味が込められています。これからの日の出町の教育が永続的に営まれ、社会から必要とされる存在であり続けるための決意を表すべく、『青海波』を愛称として付けました。

さて、ここに示した決意を踏まえ、これからの日の出町の教育の方向性を見定め、教育要覧『青海波』を締めくくっていきます。

『青海波』って聞きなれないなと思っていたけど、これを選んだ理由を聞くと、強い決意を感じるね！ これまでも形を変えながら営まれてきた教育が、これからも日の出町のビジョンやニーズを基に形を変えていく。それが、時代や地域とともに、歩いていく日の出町らしさなのかもしれないね！



1. これからの日の出町の教育の方向性

さあ！共に未来を創りに行こう！！

～ 学びのまち・ひので ～

教育長 平崎 一美

人は誰もが、しあわせに生きてみたいと願います。その願いは、明るく元気に、生き生きと生活し、自分のよさや可能性を見つけ、さらに伸ばし、地域や社会、人の役に立ちたいという思いでもあります。

また、人が、夢や希望をかなえるために努力することや、そこでの学んだことや気づいたことを仲間と分かち合い贈り合い、互いの学びを支え合うことを通して、誰かの役に立っていることを実感することが、生きがいややりがいとなり、学び続けていく意志の源、原動力になります。

さらに、人が生きていく上で、様々な困難や変化を受け止め、粘り強く、しなやかに立ち向かう「志」や多様な他者とともに互いを尊重しながら「共に生きる力」といった、これからの時代に欠かせない「心の力（非認知スキル）」を身につけることが必要です。これらは、いつの時代においても、社会がいかに変化しても求められる、一人一人の自立と人々の共生の姿です。

このように、人々の願いや生き方を支えるためには、誰もが自分らしく生きることを大切にしながら、他者の生きがいややりがいを支え、共に生きていくことができるように、一人で抱え込まず、一人に抱え込まず、互いを認め合い、力を合わせていくことを可能にする教育が必要です。

「教育は、未来を創る原動力」です。

次代を担う子どもたちの学びや成長について、その目指すところをみんなで共有し、その目標を達成に向けて、教育に携わる誰もが主役として協働していくことで、人々の一体感を生み出し、地域の教育的風土を創り出します。

そして、一体感が醸成された地域コミュニティのもとに、魅力ある教育が育ち、みんなで教育をつくるのが、魅力あるまちづくりに繋がっていきます。

日の出町教育委員会では、「共に学び、支え合い、みんなで創る日の出町の教育」は、「まちの魅力が教育を育てる。」という考えのもと、あらゆる人々の参画と協働による「学びのまち・ひので」を目指していきます。

そして、日の出町で暮らす誰もが、互いを認め支え合い「かかわり」や「つながり」を大切にして、日の出町の地域・社会、豊かな自然、歴史・伝統文化と共に生き、夢や希望の実現に向けて、自らの道を切り開くことができるように、みんなで日の出町の教育の未来を創りに行きましょう。

「心の力（非認知スキル）の獲得」や「町の魅力が学校を育てる」ということを実現するには、あらゆる人々の力が必要になるね！学校や家庭だけがやれば良いってものじゃないんだね！自分にできることを考えていきたくない！みんなはどう思う？



2. 年表で見る日の出町の教育

これまでの教育

